

箱根山の火山活動解説資料（平成 22 年 10 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成 21 年 3 月 31 日に噴火警戒レベルの導入に伴い噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警戒事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図 1※、図 2）

宮城野（大涌谷の東北東約 3 km）に設置してある遠望カメラでは、早雲地獄の噴気は少ない状態が続いており、噴気の高さは 100～200m で経過しました。

・ 地震や微動の発生状況（図 3※）

箱根山付近を震源とする火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は静穏に経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況

湯河原に設置している体積歪計^{ひずみ} 計¹⁾ による地殻変動観測では、火山活動によるとみられる変化は認められませんでした。

1) センサーで周囲の岩盤から受ける力による体積の変化をとらえ、岩石の伸びや縮みを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの注入等により変化が観測されることがあります。



図 1 早雲地獄の状況（10月23日、宮城野遠望カメラによる） 白円内は早雲地獄からの噴気
気象庁の宮城野遠望カメラでは、大涌谷からの噴気は高さ 100m 以上の場合、観測されます。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 22 年 11 月分）は平成 22 年 12 月 8 日に発表する予定です。

※この記号の資料は気象庁のほか、東京大学、独立行政法人防災科学技術研究所及び神奈川県温泉地学研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

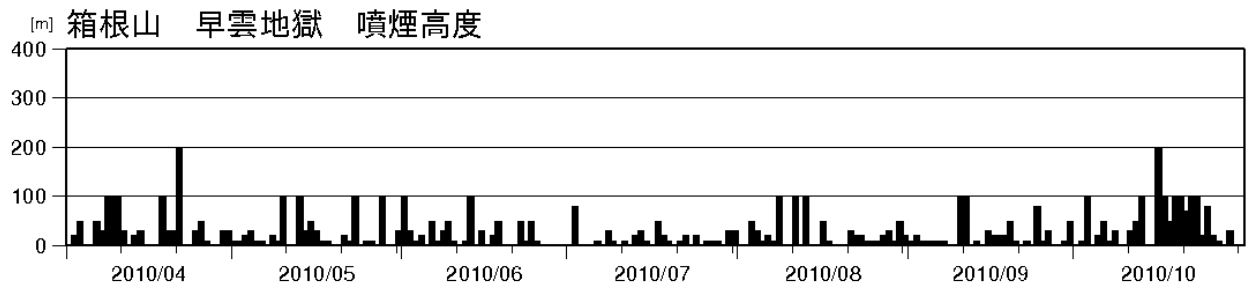
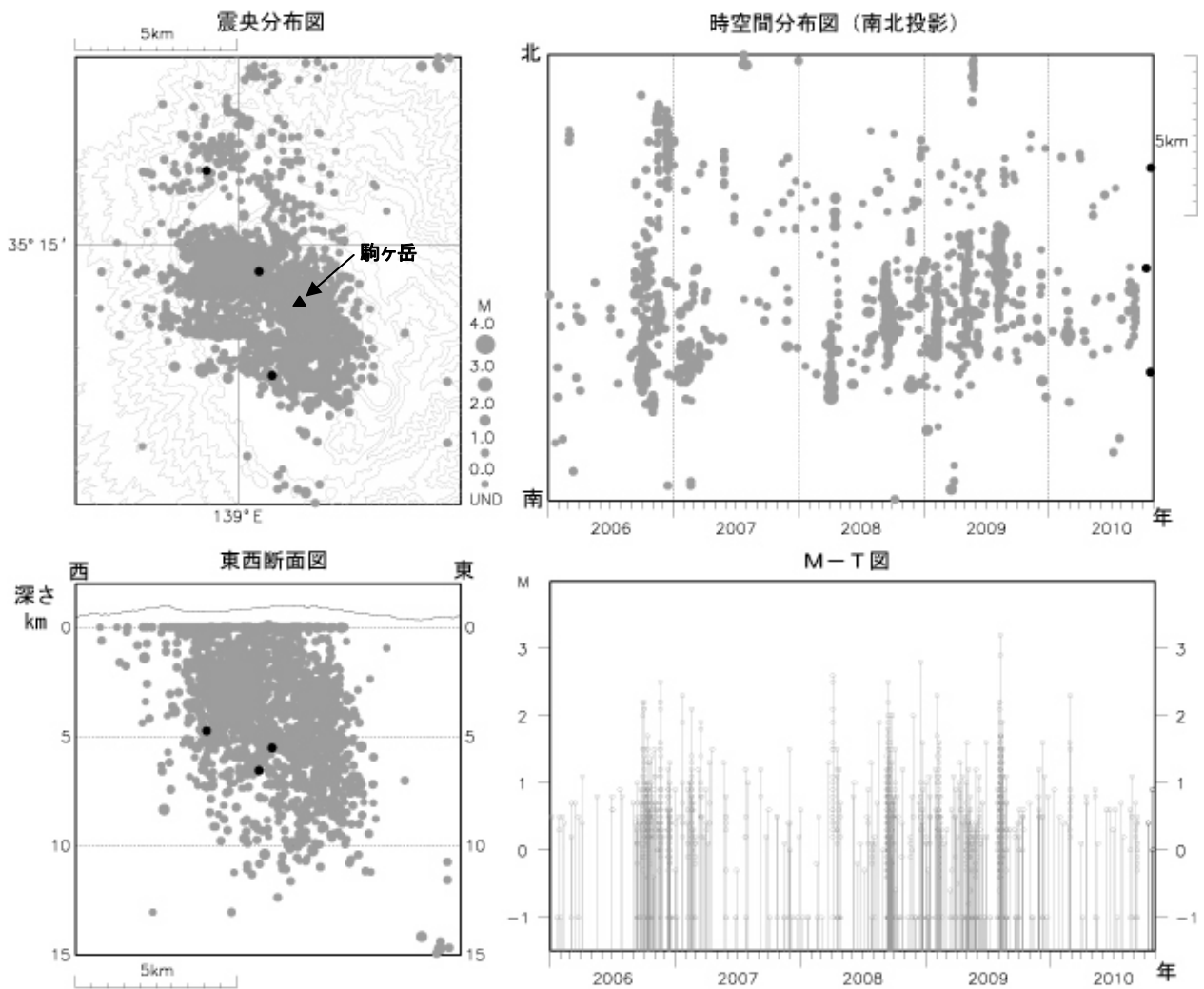


図 2 早雲地獄の日別最大噴煙高度（2010 年 4 月 1 日～2010 年 10 月 31 日）



● : 2006 年 1 月 1 日～2010 年 9 月 30 日 ● : 2010 年 10 月 1 日～10 月 31 日

図 3※ 箱根山 震源分布図（2006 年 1 月 1 日～2010 年 10 月 31 日）

M（マグニチュード）は地震の規模を表します。

図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

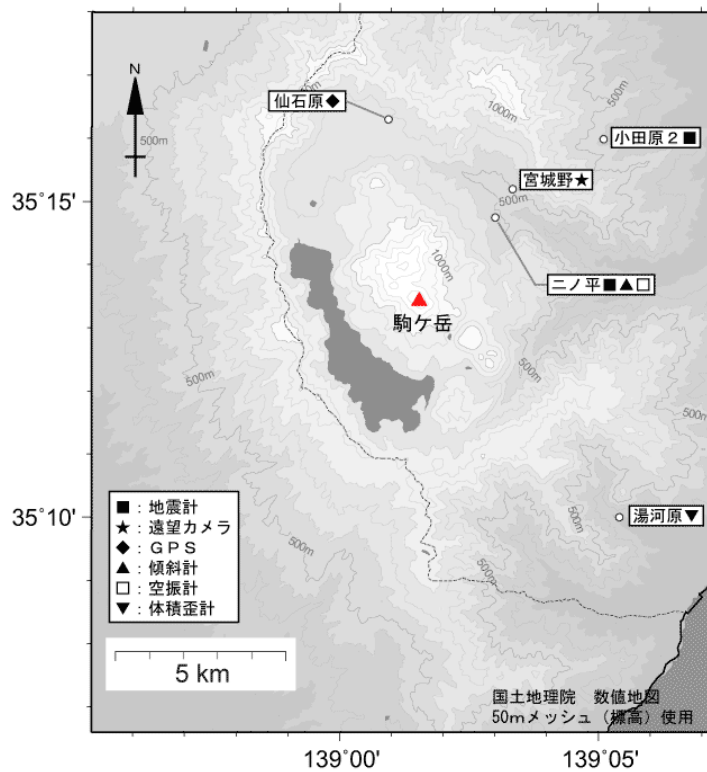


図 4 箱根山 気象庁の観測点配置図（小さな白丸は観測点位置を示しています）
運用開始前の観測点も含みます。